



整形外科シリーズ

第8回

整形外科医長
肩関節治療センター

松葉 友幸

肩石灰性腱炎について

肩石灰性腱炎とは特に思い当たることのないのに、肩が急に痛くなり腕を動かせなくなる病気です。夜間に起こることが多く、手のやり場に困り、腕を支えながら外来にくることもあります。関節周囲の軟部組織(腱板など)に石灰(炭酸アパタイト)が溜まってしまい、炎症を起こします。なぜ石灰が溜まってしまふのか、はっきりわかっていません。年と共に起きてくる変化、または腱の細胞から変化したものが結晶を作るなどの説があ

(図1:石灰沈着のあるレントゲン)



(図2:3D-CT)



ります。40〜60歳の女性に多いとされています。肩のレントゲンやCT検査にて腱板付着部(筋肉が腕に着くところ)に異常な像があるため、診断できます。(図1・図2)

●症状と経過

症状は病気が起こって間もない時期(急性期)と、しばらく時間が経って落ち着いてきたのにすつきりしない時期(慢性期)に分けられます。

急性期は組織の中から石灰物質が溶け出すことによって、炎症が起こり、強い痛みが生じます。その症状は2〜4週すると自然に落ち着きます。そのまま治ってしまい何ともなくなる人も多くいます。慢性期は急性期の痛みが落ち着いた後に、肩を動かしたときに引っかかるような症状、肩を動かせる範囲が狭くなり腕を挙げられなくなる症状があります。これは組

織の中に石灰が溜まっており、その石灰が肩の動きを邪魔するために起こります。また強い炎症が起こった後なので肩を動かす空間が狭くなってしまい、動かない場合があります。

●治療法

急性期の治療は、腕の位置を楽な姿勢にして安静にすること、消炎鎮痛剤の内服、局所麻酔薬とステロイドの注射、肩に針を刺して石灰物質を吸引するなどがあります。慢性期の治療は肩がスムーズに動かないことにより、石灰がひっかかっているため、リハビリをします。十分なりハビリをしても症状が取れない場合は手術にて石灰を摘出します。手術は小さい皮膚切開で内視鏡を使って行うこともできます。

